

非常災害対策計画作成の手引き

(水害編、土砂災害編)

この手引きは、水害、土砂災害時における避難について、記載例と留意事項等を示したものであり、各施設ではこれを参考に施設の種別や立地条件等の実態に即した計画を作成してください。

なお、既に火災や地震等の災害に対処するための具体的な計画を定めている場合には、既存の計画に「水害、土砂災害時の非常災害対策計画」の項目を追加することでもかまいません。

水害、土砂災害時の非常災害対策計画作成にあたっては、名古屋市が作成している「あなたの街の洪水・内水ハザードマップ」、愛知県が作成している「土砂災害情報マップ」で情報の伝達方法や避難場所・避難経路等をご確認ください。

・名古屋市あなたの街の洪水・内水ハザードマップ

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/20-2-6-6-0-0-0-0-0-0.html>

・愛知県土砂災害情報マップ

<http://sabomaps.pref.aichi.jp/portal/showmap.php>

—目次—

1. 計画の目的	1
2. 計画の適用範囲	1
3. 防災体制	2
4. 情報収集及び伝達	7
5. 避難誘導	13
6. 防災教育及び訓練の実施	16

「〇〇〇〇（施設名）」における水害、土砂災害時の非常災害対策計画

1. 計画の目的

《記載例》

- この計画は、水害、土砂災害時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

《留意事項》

- 非常災害対策計画は、火災に対処するための計画のみでなく、火災、水害、土砂災害、地震等に対処するための計画を定めることを想定しており、災害ごとに別の計画として策定する必要はありませんが、水害、土砂災害、地震等地域の実情にも鑑みた災害にも対処できるものとしなければなりません。

2. 計画の適用範囲

《記載例》

- この計画は、「〇〇〇〇（施設名）」に勤務又は利用する全ての者に適用するものとする。

《留意事項》

- 施設の利用者や従業員等を把握し、施設の規模や利用者数等に応じた計画を作成する必要があります。
- 利用者数が曜日や時間帯によって変動する場合には、留意が必要です。また、従業員数が少なくなる夜間や休日の対応についても検討しておく必要があります。

3. 防災体制

(1) 避難に必要な職員数等

《記載例》

- 統括管理者〇〇、総括・情報班長〇〇、班員〇人、避難誘導班長〇〇、班員〇人
避難誘導協力者〇〇

《留意事項》

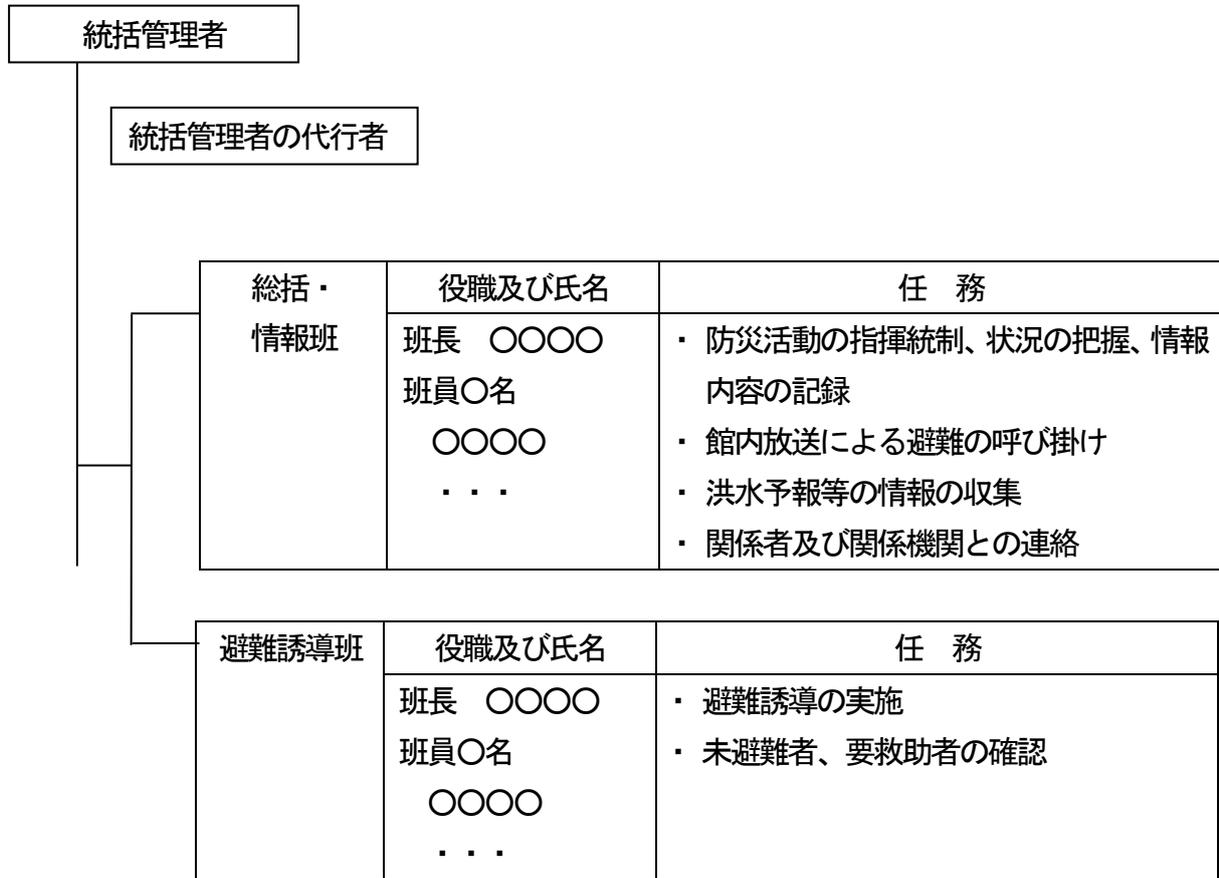
- 施設には介助が必要な利用者があります。利用者の状況に合わせた人員を配置することが必要です。

(2) 災害時の参集方法

《記載例》

- 交通手段が遮断されないよう発災前に参集することを基本とする。
- 発災時は確実に参集できる交通手段を各自選択し、事前に決めておく。

(3) 組織の編成
《記載例》



《記載例》

対応	体制確立の判断時期	活動内容	対応要員
情報収集 体制	<気象情報> ・大雨、洪水、高潮注意報 ・大雨（土砂災害、浸水害）、 洪水、高潮警報 ・大雨（土砂災害、浸水害）、 洪水、高潮特別警報 ・土砂災害警戒情報 <洪水予報> ・〇〇川氾濫注意情報 ・〇〇川氾濫警戒情報 ・〇〇川氾濫危険情報	・洪水予報等の情報収集 ・周辺住民への事前協力依頼 ・保護者への事前連絡	総括・情報班 (氏名)〇〇 〇〇 (氏名)〇〇 〇〇 (氏名)〇〇 〇〇
避難行動 体制 ①	・避難準備情報	・使用する資器材の準備 ・要配慮者の避難誘導	避難誘導班 (氏名)〇〇 〇〇 (氏名)〇〇 〇〇
避難行動 体制 ②	・避難勧告及び避難指示	・要配慮者以外の利用者、従業員 の避難誘導	避難誘導班 (氏名)〇〇 〇〇 (氏名)〇〇 〇〇

《留意事項》

- 自力移動困難者については、避難の判断を含めて検討することが望ましいです。
- 自力移動困難者の早期避難が必要な場合があります。

《参考1》

気象情報と 洪水予報の種類	発表基準
洪水注意報	大雨、長雨などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したとき
洪水警報	大雨、長雨などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき
大雨注意報	大雨による災害が発生するおそれがあると予想したとき
大雨警報（土砂災害、浸水害）	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき。気象庁から大雨警報が発表される際、特に警戒を要する災害を「大雨警報（土砂災害）、大雨警報（浸水害）」で示されます。
大雨特別警報（土砂災害、浸水害）	大雨による重大な災害が発生するおそれが著しく大きいと予想したとき
高潮注意報	台風や低気圧等による異常な海面の上昇により災害が発生するおそれがあると予想したとき
高潮警報	台風や低気圧等による異常な海面の上昇により重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき
高潮特別警報	数十年に一度の強さの台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想したとき
土砂災害警戒情報	大雨警報（土砂災害）が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったとき
〇〇川氾濫 注意情報	〇〇河川の基準地点の水位が氾濫注意水位（警戒水位）に到達したとき
〇〇川氾濫 警戒情報	〇〇河川の基準点の水位が避難判断水位に到達したとき
〇〇川氾濫 危険情報	〇〇河川の基準地点の水位が氾濫危険水位に到達したとき

《参考2》

避難情報の種類	住民・要配慮者に求められる行動
避難準備情報	避難を要する状況になる可能性がある段階 要配慮者等で避難に時間を要する者が避難を開始する目安の段階
避難勧告	災害が発生する恐れがあるため避難する段階
避難指示	被害の危険が目前に迫っており避難する段階 避難する余裕がない場合は強固な建物の上階など安全な場所へ退避する段階

(4) 施設の整備

《記載例》

- 情報収集・伝達及び避難誘導の際に使用する設備及び資器材については、下表「避難確保資器材等一覧」に示すとおりである。
- これらの資器材等については、日頃からその維持管理に努めるものとする。

避難確保資器材等一覧

活動の区分	使用する設備又は資器材
情報収集・伝達	テレビ、ラジオ、タブレット、ファックス、携帯電話、懐中電灯、電池、携帯電話用バッテリー
避難誘導	名簿（従業員、利用者等）、案内旗、タブレット、携帯電話、懐中電灯、携帯用拡声器、電池式照明器具、電池、携帯電話バッテリー、ライフジャケット、蛍光塗料 施設内の一時避難のための水・食料・寝具・防寒具

《留意事項》

- ここでは、情報収集・伝達及び避難誘導に使用する設備又は資器材について記載するものとし、記載した資器材は計画の作成と併せて整備・備蓄しておくものとしします。
- 夜間も利用者が施設内に滞在する施設においては、停電時における避難誘導の際に使用する懐中電灯や予備電源等の設備又は資器材について検討し記載するものとしします。

4. 情報収集及び伝達

(1) 情報収集

《記載例》

- 収集する主な情報及び収集方法は、以下のとおりとする。

収集する情報	収集方法
気象情報 洪水予報	テレビ、ラジオ、インターネット（気象庁ホームページ、名古屋市水防情報システム）等
避難情報	電子メール（きずなネット防災情報）、テレビ、ラジオ、インターネット（市役所のウェブサイト）、緊急速報メール、同報無線（音声）による広報、広報車による広報等

例 きずなネットを活用した情報収集

こんなメールをお届けします

平常時 防災・減災情報

災害時の対処法や安全な暮らしに役立つ情報をお届けします

- 月に1回程度の配信です

[配信例]

- ① 非常用食料について
- ② 非常時持出品の運び方
- ③ 避難所での生活
- ④ 負傷者の救護
- ⑤ ボランティア活動 など

緊急時 災害緊急情報

「避難準備情報」・「避難勧告」や名古屋市から緊急的に周知される情報をお知らせします

- 配信は24時間おこなわれます
- 情報を希望する地域を区毎に指定できます
- ※ 内容によっては、指定した区以外の情報が届く場合もあります
- 緊急速報メール（ニアメール等）ではありません

地震・津波や大雨などにより、災害発生が予想される場合の避難に関する情報や災害時に役立つ情報をメールでお知らせします。

きずなネット防災情報の登録方法

登録は簡単3ステップ!

- 1 空メールを送信
m.saigai@cep.jp
- 2 届いたメールのURLをクリック
- 3 登録したい情報を選んでクリック



バーコード読取でさらに簡単!



スマートフォンでも登録できるんだね!

アプリもあるよ!

- 停電時は、ラジオ、タブレット、携帯電話を活用して情報を収集するものとし、これに備えて、乾電池、バッテリー等を備蓄する。

《留意事項》

- 大規模な水害が発生した場合には、停電することが十分に想定されることから、停電時においても情報を収集できるよう検討しておく必要があります。

- 提供される情報に加えて、雨の降り方、施設周辺の水路や道路の状況、斜面に危険な前兆が無いかなど、施設内等の安全な場所から確認を行う。

《留意事項》

- 避難に備えて、周辺の水路が溢れていないか、道路が通行できるかなど、あらかじめ確認しておくことが望ましいです。
- また、浸水が始まっていないか、土砂災害の前兆が無いかなどについても注意が必要です。
- ただし、台風が通過している最中や雨が強く降っている時には、外の様子を確認するために外出することは危険であるため、施設内から確認するなど、安全に配慮する必要があります。

(2) 情報伝達及び関係機関との連携体制

《記載例》

- 別表「体制ごとの施設内緊急連絡網（平日用・休日用）」に基づき、気象情報、洪水予報等の情報を施設内関係者間で共有する。

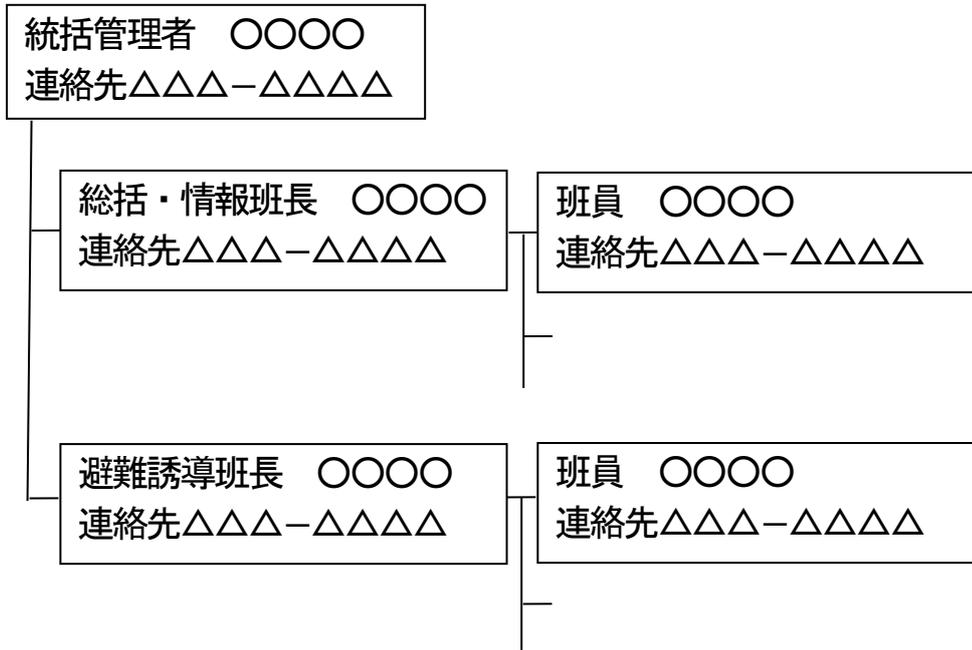
《留意事項》

- 緊急時における連絡体制（連絡網及び連絡方法）については、夜間や休日の従業員の勤務状況を踏まえ、あらかじめ定めておく必要があります。
- 名古屋市から利用者の安否情報の提供を求める場合があるため、安否情報等を整理しておく必要があります。（様式1（例））
- 利用者家族への連絡は、連絡する内容、連絡がとれない場合の対応等について事前に調整しておき、避難や引き渡しに混乱を来さないようにすることが重要です。なお、利用者家族の避難状況によっては連絡がとりづらい場合があるため、「災害用伝言ダイヤル」の利用等の連絡方法についても検討しておくといえます。（様式2（例））

《記載例》

・施設内緊急連絡網（情報収集体制）

○（平日用、休日用）



・施設内緊急連絡網（避難行動体制 ① ②）

○（平日用、休日用）



《記載例》

・ 関係機関連絡先

〇〇区役所 連絡先〇〇〇-〇〇〇〇
F A X〇〇〇-〇〇〇〇

〇〇消防署 連絡先〇〇〇-〇〇〇〇
F A X〇〇〇-〇〇〇〇

〇〇局〇〇課 連絡先〇〇〇-〇〇〇〇
F A X〇〇〇-〇〇〇〇

関係医療機関 連絡先〇〇〇-〇〇〇〇
F A X〇〇〇-〇〇〇〇

〇〇小学校（避難所） 連絡先〇〇〇-〇〇〇〇
F A X〇〇〇-〇〇〇〇

様式1(例)

避難状況整理票

(○日○時○分現在)

事業所名 ○○○○
 住所 名古屋市○○区○○町○○番地
 連絡先 ○○○-○○○○

避難所 ○○小学校

氏名	生年月日	自宅の住所	現在の居所			確認日時 身体等の状況
			自宅	避難所	その他	
○○ ○○	明治○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	大正○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	昭和○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
○○ ○○	○年○ 月○日	○市○区○町○番地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

様式 2(例)

利用者家族連絡網

氏名	生年月日	自宅の住所 連絡先	保護者名(関係) 連絡日時	避難先			備考
				自宅引き取り	避難所	その他	
〇〇 〇〇	明治〇年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	大正〇年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	昭和〇年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
〇〇 〇〇	〇 年 〇月〇日	〇市〇区〇町〇番地 〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇 〇〇 () 月 日 時 分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

5. 避難誘導

(1) 施設の立地条件

《記載例》

- 想定浸水深〇m～〇m
- 土砂災害警戒区域内

(2) 避難場所（水害）

《記載例》

- 想定浸水深より高い上階である〇階へ避難する。
- 避難場所は、〇〇区〇〇町〇丁目「〇〇小学校」とする。
- 周辺の浸水の状況や利用者の健康状態等により上記避難場所への避難が困難な場合には、一時避難場所として本施設〇棟の〇階へ避難するものとする。なお、上階避難に際して、浸水の恐れがある場合は救命胴衣の着用等、救命対策が必要である。

《留意事項》

- 万が一避難が遅れた者や避難場所までの避難が困難な者が発生した場合を想定して、洪水・内水ハザードマップの浸水深等を参考に、計画の対象施設又は近隣の施設の上層階を一時避難所として設定しておくことが望ましいです。また、土砂災害の恐れがある場合は、建物内の上階等、山の斜面の反対側へ一時避難として設定しておくことが望ましいです。
- 上層階に一時避難した場合には、浸水の長期化や孤立によって、水や食料の補給や体調を崩した場合の処置等に困難を伴うため、必要な物資の備蓄や最低限必要な照明等の準備を整えておくなど、留意が必要です。

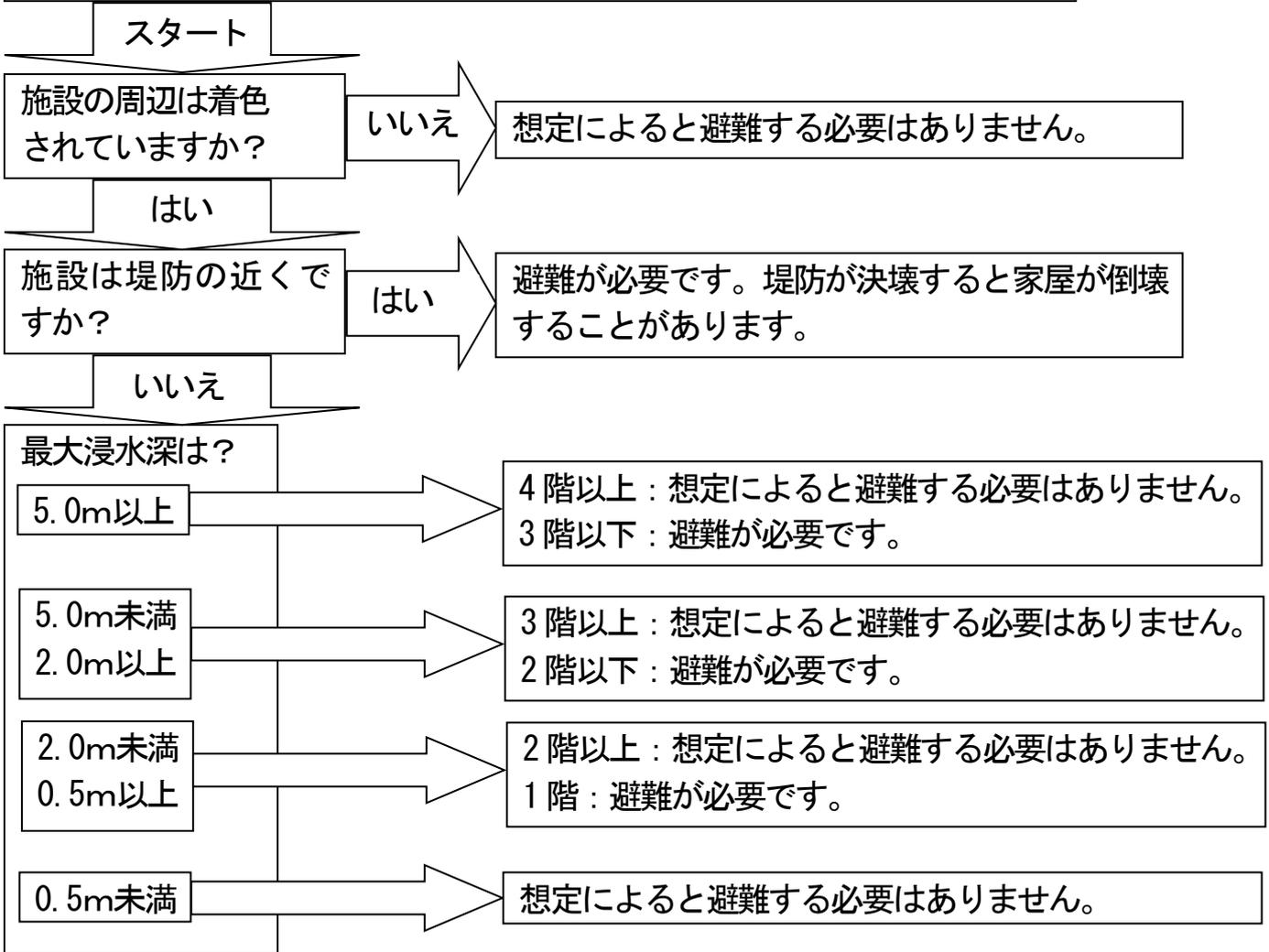
(3) 避難場所（土砂災害）

《記載例》

- 土砂災害（特別）警戒区域の区域外へ避難する。
- 避難場所は、〇〇区〇〇町〇丁目「〇〇小学校」とする。

《水害に対する避難行動の目安》

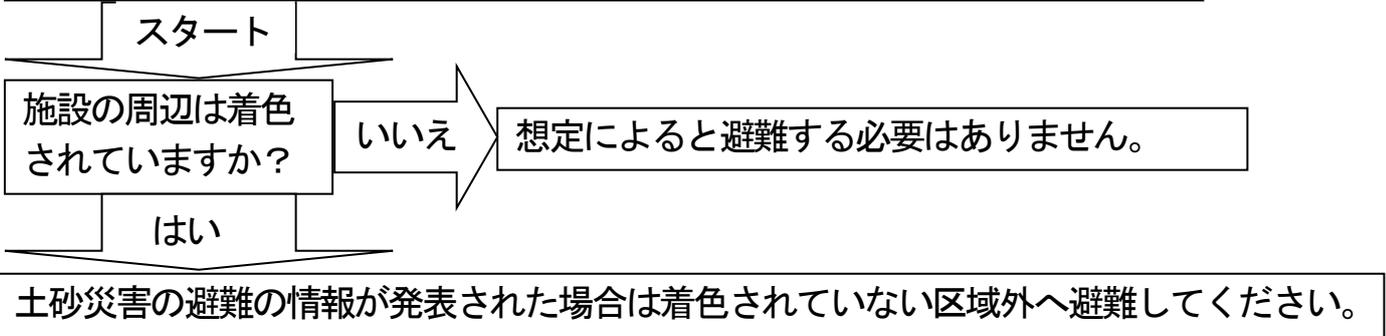
施設周辺の最大浸水深（内水氾濫と河川洪水氾濫で最も深くなる水深）を「あなたの街の洪水・内水ハザードマップ」でご確認ください。



※避難する必要がなくてもあくまで想定ですので、日ごろの準備は必要です。

《土砂災害に対する避難行動の目安》

施設周辺の土砂災害の危険性を「土砂災害情報マップ」でご確認ください。



(4) 避難経路

《記載例》

- 水害、土砂災害時における避難場所までの避難経路については、別紙〇「避難経路図」のとおりである。

《留意事項》

- 洪水・内水ハザードマップ等には、避難経路となる道路の他、土砂災害の危険箇所等も記載されていますので、それらを参考に安全な避難経路を設定してください。
- 上層階への一時避難の場合は、館内の避難経路について検討を行い、使用する階段等を設定してください。なお、エレベーターは停電や浸水によって停止することに留意してください。
- 避難経路については、河川や海からの氾濫水が到達していなくても内水による浸水が発生していることも考えられることから、避難する人数等も考慮して、可能な限り標高が高い道路を選定することが望ましいです。

(5) 避難誘導方法

《記載例》

- 避難場所（〇〇区〇〇町〇丁目「〇〇小学校」）に避難する際は、避難を開始する前に、必ず避難場所の開設状況等を確認する。
〇〇区役所 〇〇〇—〇〇〇〇
- 施設外の避難場所に誘導するときは、避難場所までの順路、道路状況について説明する。
- 避難誘導にあたっては拡声器、メガホン等を活用し、先頭と最後尾に誘導員を配置する。
- 避難誘導員は、避難者が誘導員と識別しやすく、また安全確保のための誘導用ライフジャケットを着用し、避難ルートや側溝等の危険箇所を指示する。
- 避難する際には、ブレーカーの遮断、ガスの元栓の閉鎖等を行う。
- 浸水するおそれのある階または施設からの退出が概ね完了した時点において、未避難者の有無について確認する。

《留意事項》

- 避難誘導方法については、時間帯毎（昼夜、休日）に避難する人数、従業員数等を考慮して、誘導員の配置や使用する資器材等を具体的に定めておく必要があります。
- 車での避難は、浸水箇所では動けなくなる危険や川沿いの道路から川に転落する危険等を伴うため、安全で確実な移動手段であるかを慎重に判断する必要があります。また、夜間の屋外への避難にあたっては、目の不自由な利用者に対しても、安全かつ迅速に誘導できるよう、避難誘導員は避難者が一見して誘導員と識別できるよう明るい色の衣服を着用したり、側溝やがれき等の危険箇所に近づかないよう蛍光塗料を使ってルート誘導を行ったり、安全に配慮した工夫をすることが望ましいです。
- 夜間の避難は時間を要することから、余裕を持った避難をすることが望ましいです。

6. 防災教育及び訓練の実施

《記載例》

- 新規採用の従業員を対象に研修を実施する。
- 毎年〇月に全従業員及び利用者を対象として、情報収集・伝達及び避難誘導に関する訓練を実施する。

《留意事項》

- 避難を円滑かつ迅速に確保するためには、本計画に基づく訓練を実施し、必要に応じて計画を見直すことが必要不可欠です。
- 研修や訓練には、名古屋市が配布している洪水・内水ハザードマップ等の他、国土交通省等が実施する出前講座等が活用できます。
- 地震等を想定した情報伝達訓練や避難訓練を実施している施設においては、当該訓練の実施をもって、本計画に基づく情報伝達及び避難誘導に関する訓練に代えることができます。（ただし、災害の種類によって避難場所や避難経路が異なる場合があることの従業員等への周知や、洪水時等の避難に関する研修を別途実施してください。）

非常災害対策計画
作成の手引き（水害編、土砂災害編）

作成者 名古屋市
作成年月 平成28年10月